

学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾
麻生外語観光＆ブライダル専門学校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員出席者名簿	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 4 -
5. 学校関係者評価の評価方法	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告	- 5 -
1. 重点項目について	- 5 -
2. 基準項目について	- 6 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1)目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者等・地域住民などの学校関係者が、麻生外語観光＆ブライダル専門学校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2)基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏 名	所 属(役職)	出欠
業界関係者	大橋 智恵	ヒューリックホテルマネジメント株式会社 ゼネラルアシスタントマネージャー	出席
業界関係者	越智 史子	ANA 福岡空港株式会社 旅客サービス部 マネージャー	出席
業界関係者	山根 武志	ANA 福岡空港株式会社 グランドサービス部 マネージャー	出席
有 識 者	小柳 芳隆	公益財団法人 福岡観光コンベンションビューロー 事務局長	出席
高等学校	井地 誠	福岡県立嘉穂東高等学校 校長	出席
地域住民	浦川 美代子	博多駅南 1 丁目 1 区自治会 会長	出席
卒 業 生	成重 あずさ	令和 1 年度卒業	出席
保護者等	藤嶋 千鶴	ホテル・リゾート科 保護者	出席

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時:2026年6月 17 日(水)14:30 ～ 16:30

場 所:麻生塾福岡キャンパス8号館5階851教室

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

2025年度の活動実績に対し学校関係者評価委員と学校とで十分な意見交換を行い、学校の状況について共通理解を深めた。

自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果、課題及び改善策について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1)自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2)今後の解決方向が適切かどうか
- (3)学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4)その他、学校の運営に関する助言

5. 学校関係者評価の評価方法

基準項目の小項目ごとに、自己点検・評価と同じく下記の評価基準によって評価し、基準ごとに自己評価結果が適正であるかどうかを評価した。

自己評価結果に対する学校関係者評価の結果は基準項目ごとに表記している。

また、意見についてもとりまとめて記載している。

評価基準

- 3:基準を満たしており、特筆すべき取り組みを行っている
- 2:概ね基準を満たしている
- 1:基準を満たしておらず改善が必要

Ⅱ. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【重点項目】

基幹システムの変更年度となり、従来のシステムとの併用使用のため更なる業務負荷がかかる。委員会等を設立し啓蒙活動や学習会等を展開していく。

【取組み状況及び総括(成果と課題)】

本校では、業務効率化を目的として麻生塾独自のラーニングマネジメントシステム(LMS)である Manabie および Alis(生成AIシステム)を導入し、出欠管理や学習履歴の蓄積、学習教材サポートなど、従来は紙媒体や属人的な運用に依存していた業務のシステム化を進めてきた。これにより、DX 推進に向けた基盤整備は一定程度進展しており、教職員の間でも業務効率化に向けた意識が醸成されつつある。また、一部の教職員が先行してシステムの検証や運用改善に取り組むことで、現行業務における問題点が具体的に可視化され、改善に向けた議論が進む段階に入っている。

一方で、Manabie については導入から日が浅く、従来の出席率管理や単位修得管理と比較して操作性や効率面で課題が残っており、現場では十分に活用しきれていない状況が見られる。また、クラス運営報告書や各種申請書類、公欠届、出席停止申請書、受験報告書など、依然として紙ベースで運用されている業務が多く残っている。さらに、授業支援ツールと事務処理システムが分断されているため、デジタルとアナログが混在した非効率な運用が続いている。現在は一部の教職員が中心となって Alis や Manabie の改善に取り組んでいる段階であり、全体最適を見据えた運用体制や情報共有は十分に整っていない。

Manabie および Alis の導入により、業務のデジタル化が進み、DX 推進に向けた基盤整備が一定程度進展した点は大きな成果である。教職員の間でも業務効率化に向けた意識が高まり、改善に向けた姿勢が共有されつつある。また、一部の教職員が先行してシステムの検証や改善に取り組むことで、現行業務の課題が具体的に明らかになり、今後の改善策を検討するための土台が形成されている。

しかしながら、現状ではシステム導入が十分な業務効率化に結び付いているとは言い難い。Manabie の操作性や入力作業の増加により、教職員の業務負担がむしろ増大しているとの指摘があり、従来より非効率と感じられる場面も生じている。また、紙ベースの業務が多く残っていることや、授業支援ツールと事務処理システムが分断されていることから、デジタルとアナログが混在した非効率な運用が続いている点も大きな課題である。今後は、単なるシステム導入にとどまらず、業務全体の流れを俯瞰し、DX の目的と役割を明確化したうえで、全教職員が共通認識を持って取り組む運用体制の構築が求められる。実効性のある業務効率化を実現するためには、課題の共有と改善策の具体化を進め、全体最適を意識した DX 推進を図る必要がある。

【委員からのご意見】

なし

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果: 適正

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【取り組み状況】

法人および学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像は、「学生便覧」に明記し、学生、教職員、非常勤講師に配布している。新年度開始前には、教員研修や非常勤講師会で内容の読み合わせを行い、共通認識を深めている。また、学生に対しては、入学オリエンテーション等を通じて内容を伝えている。さらに、学校ホームページを通じて広く社会に公表している。

【課題及びその改善方策】

課題なし

【委員の方からのご意見】

- ・ 教育理念および各科の育成人材像が明確に示されており、それを学生保護者にも伝えていることで、教育が一貫していると感じる。
- ・ 学校を調べる際はホームページを見ることが多いので、各種情報が掲載されているのはよい。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
1-1-1	「学校の教育理念」を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	2	2
1-1-2	各学科の教育目標(育成人材像)を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	2	2

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果：適正

- 2-1:学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか
- 2-2:事業計画を作成し、執行しているか。
- 2-3:運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。
- 2-4:人事・給与に関する制度を確立しているか。
- 2-5:情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【取り組み状況】

2-1

学校の運営方針は、法人および学校の教育理念に基づいて定めている。また、教職員には、定期的を開催する教務会議を通じて周知している。

2-2

事業計画は、運営方針に基づいて策定し、教職員全員に周知・共有している。運営方針に沿って、入学者数の確保、卒業生の増加、学生の成長実感、企業とのコミュニケーションの 4 本柱を基軸に事業計画を立案している。また、半期ごとに執行状況を点検し、計画を進めている。

2-3

法人において明文化された運営組織および意思決定機関の仕組みのもとで運営されている。理事長・常務理事・理事・本部長・監事が参加する常任理事会が適宜開催され、組織運営上の重要課題について合議がなされている。

また、校長代行が参加する部門長会議等、各階層別・目的別の会議体が設計されており、これらに参画し、法人方針の共有と学校運営への反映を行っている。会議は計画的に開催され、有効に機能している。

学校法人として、グループ校共通の事務組織を設置し、業務別に部門を編成している。各部門の事業計画において担当業務を明確化し、部門と学校が連携して適宜業務の流れや人員配置の見直しを行っている。

学校としては、学科ごとに編成された部門を中心に運営し、部門長会議において適切かつ迅速な判断を行っている。さらに、定期的を開催する教務会議を、必要に応じた情報共有や意思決定の場として活用している。

学校業務を支援する事務組織は設置されているものの、学内の業務負担軽減という点では十分に機能しているとは言いがたい。役割分担は一定程度行われているが、業務検証や改善は担当者に依存しており、全体での共有には至っていない。また、法人の組織再編により就職サポートの一部業務の責任の所在が不明確となっている。

事務職員の意欲や資質・能力向上については、主に個人の自主的な取り組みに委ねられており、組織としての明確な育成方策や計画、検証は十分に整備されていない。

2-4

法人で整備された雇用区分ごとの就業規則および各種人事諸規程、労使協定に基づき運営している。これらは法令を遵守して整備されている。また、法人の運営方針や労働関連法令の改正に応じて規程の見直し・改定が行われており、その内容を教職員へ周知し、適切な運用に努めている。

法人で定められた給与規程(または一部雇用形態については就業規則)に基づき、法令を遵守した給与制度のもとで運用している。これらの規程は法人内共有フォルダ等を通じて教職員に公開されており、本校においても透明性の確保に努めている。

法人で整備された昇給・昇格制度を含む人事制度に基づき運営している。制度内容は教職員に公開されている。また、法人の基本方針を踏まえつつ、社会情勢や物価動向等を勘案し制度の見直しが適宜行われており、その運用に

において公平性・妥当性の確保に努めている。

法人で定められた採用規程に基づき、適切な募集・採用を行っている。

採用にあたっては、当該部署の責任者が採用稟議を起案し、求める人物像を明確にしたうえで選考を実施している。また、法人本部および関係部門と連携した採用体制のもと、面接から内定判断まで規程に則って運用している。さらに、選考状況や内定辞退の状況等を確認し、採用プロセスの妥当性について検証を行っている。

2-5

業務効率化を目的に Manabie 及び、Alis を導入し業務の効率化を推進しているが、運用開始から日が浅く十分に活用できていない。依然として紙ベースの業務や書面中心の事務処理が多く残り、取組みに偏りがあるほか、検証・改善も一部教職員に限られている。

【課題及びその改善方策】

2-3

事務組織は設置されているが、業務範囲や役割分担が不明確で、学内の業務軽減に十分機能していない。今後は事務組織の機能強化を図る。また、事務職員の育成については、組織的な方針や計画が不十分であることが課題である。今後は、育成方針を明確化し、研修や目標管理を通じて計画的に意欲・能力向上を図る。

2-5

Manabie や Alis の導入により業務の効率化の基盤整備や改善意識は一定程度進展しているが、現状では業務効率化に十分結び付いていない。操作性や入力負担、紙業務の残存により非効率や混乱が生じており、今後は業務全体を俯瞰した目的共有と全体最適を意識した運用体制の構築が課題である。

【委員の方からのご意見】

2-3-5

- ・ 常任理事会を経て部門長会議、教務会議等で共有される情報が事務職員まで共有されていない可能性があるのではないか。事務職員も学校運営の一員として自覚を高めることはともに win win の関係になると思う。
- ・ 職員のスキル向上やマインド合わせなどに対する意識は高いと思う。
- ・ 自主的な取り組みには限界があるため、学校における一部負担なども検討要であると感じる。

2-5-1

- ・ Manabie の教材を学生が自宅で見直しができ、また教員が未学習の学生を確認できるのはよい。教科担当の教員の負担軽減として、事務処理を行うスタッフがいるとよいのではないかとと思う。
- ・ 運用開始からまだ日が浅いので、ある面仕方ない部分もある。それよりも今後どうしていくか、全体で検証していくことが重要だと思う。
- ・ 効率化については、弊社でも課題としており難しいとは認識している。今後は仕組みを検討いただきたいと思います。
- ・ IT は導入は難しいが、継続運用していくものなので、専門チームを設けて教員・学生も支援できる窓口が必要だと感じる。
- ・ どこか一部分でもアウトソーシングにすると効率が上がると思う。弊社でも人の手が入ることでミスが発生する所はすべて外部が行っている。
- ・ Manabie についての出欠管理は、公欠・遅刻の記録ができず、学生の個別フォローは従来の運用が必要。様々な機能が備わっているがもっとうまく運用できればと思う。また授業用コンテンツ活用はとてもよい。学生が予習・復習にも活用できる教材データのリアルタイム提供は学びを深めることになる。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	2	2
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	2	2
2-2-2	事業計画は適正に執行されているか。	2	2
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	2	2
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	2	2
2-3-3	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に行われているか。	2	2
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	2	2
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	1	1
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	2	2
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	2	2
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	2	2
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	2	2
2-5-1	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか。	1	1

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果：適正

3-1:教育理念、教育目標(育成人材像)に沿った教育課程を編成・実施しているか。

3-2:教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

3-3:教育の評価を適切に行っているか。

3-4:成績評価と単位認定を適切に行っているか。

3-5:教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【取り組み状況】

3-1

教育目標(育成人材像)の達成に向けて、教育課程編成委員会の構成員である企業・団体と定期的に情報共有を行い、企業・業界のニーズに応じた教育課程の編成と実施方法について協議している。

また、学生便覧に教育理念、育成人材像、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを掲載し、学生および学校構成員に周知している。

なおこれらの内容については HP にて社会に公表している。

3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程編成委員会およびカリキュラム会議を通じてカリキュラムを作成し、業界ニーズに対応した実践的な職業教育を提供できるよう、継続的に見直しを行っている。授業科目は体系的に整備し、授業の目的を学生に明確に示すとともに、授業内容に沿ったシラバスおよびコマシラバスを作成し、授業の実施状況も記録している。また、学習支援の充実を図るため、ラーニングマネジメントシステム(LMS)を活用した学習環境を整備した。

企業と連携した実習を実施する際には、実習計画をもとに企業との覚書を交わし、学生への事前教育を行っている。実習中は教員が現場を巡回し、企業からのヒアリングを実施する。実習後は学生の振り返りレポートをもとに課題を抽出し、次年度の現場実習への対策を検討している。

キャリア教育においては、キャリアデザインや GCB 教育(グローバルシティズン・ベーシック教育:麻生塾独自のキャリア教育プログラム。以下「GCB」という)の授業を設け、学生が社会的・職業的自立に必要な能力や考え方を習得できるよう支援している。

3-3

前期・後期に授業アンケート(常勤・非常勤講師対象)を実施し、客観的な評価を得るとともに、アンケート結果に対する本人コメントとあわせてフィードバックを行っている。

また、教育力マネジメント委員による授業見学を行い、教育内容・授業方法について状況把握を行い、授業改善等に活用した。

3-4

成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は学生便覧によって明示されている。学生便覧は学生全員に配布しており必要時に基準を確認できている。

また、教科ごとに作成されたシラバスに基づき、適切に成績評価を行っている。期末試験や授業内評価を経て、適正に単位を認定している。進級・卒業については、学則および学校規程に基づき、担任や管理職など複数の担当者が確認し、判定している。

合理的配慮が必要な学生については、各規程に基づき、公平な評価の在り方を個別に検討している。

3-5

本校は、学校の理念・目的の達成に必要な教員数を確保し、教員組織を構築している。また、管理職による運営会議や教務会議を定期的開催し、課題や問題点を共有することで、教育活動の改善に取り組んでいる。

指導力研修は法人として年間計画に基づき実施しており、年初に計画を立て、教員が参加できる体制を整えている。研修後は報告書を作成し、必要に応じて勉強会などを開催し、学内での研修内容の共有を図っている。

専門性の維持・向上については、企業と連携した取組みを実施しているが、業界によって研修の充実度に差があり、参加可能な研修が十分とはいえない。

【課題及びその改善方策】

3-2

LMS の取組みをさらに高めるために、教員研修を計画的に実施する。

3-5

業界によっては、専門分野の研修が不定期に実施されることが多く、事前の研修計画を立てにくい。研修機会を逃さないため、随時情報を収集し、可能な限り参加できるよう努める。

【委員の方からのご意見】

- ・ 教育活動全般が明確に示されており、ホームページ・学生便覧でもしめされ「開かれた学校づくり」ができている。評価についても便覧で示されているため学生にとっても意欲的に授業に取り組めると思う。
- ・ ホームページの情報公開により色々な方からの意見が入るので良いものになっていると思う。また授業アンケートは学生の声が直接反映されるので、教員側も授業のアップデート機会を得ることができよいと思った。教員による授業見学も授業のアップデートにつながると思った。
- ・ キャリア教育におけるマインド育成は重要だと感じたので今後も力を入れて取り組んでもらいたい。授業アンケートは教育の改善につながっていると感じた。
- ・ 学生の専門性をより向上させるための教育を実施している。
- ・ 授業見学の仕組みはよい。他のクラスを見ることで客観的に授業を見ることができ、重要だと感じた。
- ・ 採用担当者としては、スキルは入社して経験を積み習得できると考えている。むしろ社会人としての心がけ、挨拶などを学生時代に身につけてほしい。考える力、自分が何ができるかを考えられるような教育を行ってほしい。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
3-1-1	教育目標(育成人材像)に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	2	2
3-1-2	教育目標(育成人材像)に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	2	2
3-2-1	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	2	2
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容(学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等)が提供されているか。	2	2
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	2	2
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	2	2
3-2-5	授業及び実習に関するシラバスは作成しているか。	2	2
3-2-6	シラバスに基づいてコマシラバスを作成しているか。	2	2
3-2-7	授業はシラバス及びコマシラバスに基づいて実施しているか。	2	2
3-2-8	専攻分野における実践的な職業教育(インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等)を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	2	2
3-2-9	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	2	2
3-3-1	授業評価体制を整備しているか。	2	2
3-3-2	学生によるアンケート等で定期的に授業評価を実施しているか。	2	2
3-3-3	授業科目の目標に照らし、教育内容・授業方法が適切であるか確認しているか。	2	2
3-3-4	授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。	2	2
3-3-5	授業評価の結果をもとに、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	2	2
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	2	2

3-4-2	学生や保護者等に、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準、進級要件、卒業要件を適切に明示しているか。	2	2
3-4-3	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	2	2
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	2	2
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	2	2
3-5-3	教員に必要な知識・技能を身に付け、資質・能力の向上を図るための取り組みを行っているか。	2	2
3-5-4	教員に対して、専攻分野に係る関連分野の企業等と連携して、実務に関する研修・研究に組織的・計画的に取り組んでいるか。	2	2
3-5-5	教員に対して、企業等と連携して、指導力・教授力を習得、向上するための取り組みを行っているか。	2	2

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適正

4-1:学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

4-2:卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

【取り組み状況】

4-1

就職率向上に向けた取り組みとして、毎月の教務会議委員会で内定状況を共有している。さらに、毎週開催する就職部会では、求人情報の共有と把握を行い、学生が受験する際の注意点を確認している。就職指導においては、就職担当者と担任が各学生の状況を共有し、連携した指導を実施している。内定状況や指導の成果については、各学科での振り返りを経て全体で情報共有を行い、次年度の指導改善に活用している。

検定取得に関しては、本校の教育理念および教育目標(育成人材像)に基づき、教育活動や学生指導を展開している。教育成果を測る指標として、資格取得率の目標値を事業計画に盛り込み、新年度開始前に教務会議で全教職員と共有している。その後、部門会議や教務会議を通じて進捗状況や結果を適宜共有している。検定結果が判明した後は、検定運営責任者が結果報告書を作成し、合格率などのデータを全教員に共有している。また、担当教員が授業振り返りレポートを作成し、成果や課題を整理し、改善点を明確にしている。

退学率低減に向けた取り組みとして、クラス運営報告書や教務会議での情報共有を行うとともに、スポーツ大会や学園祭を実施し、学科・学年を超えた学生同士の交流機会を提供した。また、「キャリアデザイン」の授業では、担任交換を通じて普段接点の少ない教員との交流機会を設け、学生が相談しやすい環境づくりに取り組んでいる。さらに、教育力マネジメント委員会は、退学防止に向けた指導スキル向上を目的とした勉強会を実施している。

4-2

卒業生の状況は、就職担当者が企業人事担当者より確認し、担任へ報告している。学科内でも情報共有を行い、学生時代のどの学びや取り組みが、企業での活躍につながっているかを確認し、今後の教育活動に反映させている。

インターンシップを行っている学科においては、実習巡回で各企業を訪問した際に、学科教員が直接企業の担当者に卒業生の現状やキャリア形成について聞き取りを行い、卒業生の様子を把握している。その際に得た情報や意見の共有を行い、教育活動の改善に繋げている。また担任が来校した卒業生との話のなかで状況把握している。

しかし、一部把握しているものの、卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を体系的・継続的に把握する仕組みは十分に整っていない。

【課題及びその改善方策】

4-2

卒業生の動向把握が限定的で、調査結果を教育改善に十分活用できていない点が課題である。

今後は、卒業後調査や企業ヒアリングの体制を整備し、得られた情報を体系的に共有・分析することで、教育活動やキャリア支援の継続的な改善につなげる。

【委員の方からのご意見】

- ・ 卒業率向上、また検定取得について全体で振り返りを経て情報共有が行われていることは高く評価できる。
- ・ 退学率の低減は苦勞が多いと思うが、きめ細かいフォローを継続してもらいたい。
- ・ 色々な視点からカリキュラムを作成しており、学生ファーストの視点を感じた。また退学防止に向け、勉強会を行う等、学校全体で取り組んでいる姿に共感した。
- ・ お金の問題が解消されることは素晴らしい。
- ・ 教育力マネジメント委員会は退学防止のよい制度であり、今後も大事になると思う。
- ・ 出席率や成績のクラス格差がみられる。単位制に移行してから顕著にみられる。専門学校は社会人に向けての絶好の準備機会であることを学生にもっと理解させ、あらためて学びの重要性を学生に認識させてもらいたい。
- ・ 高校では特性のある生徒、発達障害、不登校経験者などが入学してきているため、学校生活を継続させるためには情報共有が大事である。ただし担任が全てを背負うのが一番危険。担任が崩れると生徒を救うことができない。
- ・ 就職後に仕事を辞める方も多いので、その後の動向を確認することは難しいと思う。
- ・ 最近は「キャリア迷子」という言葉も聞くので就職後のフォローもあると卒業後の離職も減らせるかもしれない。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	2	2
4-1-2	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取組みを行っているか。	3	3
4-1-3	資格取得率、公務員合格率及びコンテスト・コンペ入選数の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。	2	2
4-1-4	資格取得等に関する指導体制及びカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	2	2
4-2-1	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	2	2

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果：適正

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【取り組み状況】

5-1

本校に所属する教職員と共に、法人として組織的に留学生を含む全学生の修学支援、生活支援、進路支援を行う体制を整えている。担任による学生相談に応じた進路指導、メンタルヘルスについては校医や専門のカウンセラー、経済的支援について学校法人麻生塾学生支援グループ担当者による対応等、学生の支援内容に応じて適宜対応している。クラス運営に対して支援が必要な場合は、教育力マネジメント委員が支援を行い、複数の教員による支援の体制を整えている。

必要に応じてフレックスクラス(本クラスでの受講が困難な学生を対象とした麻生塾独自のセカンドクラス)へと接続するなど、あらゆる角度から学生の学びを支援している。ただし学生自身が抱える問題に加え、家庭環境が複雑で経済的、精神的な支援を必要とする学生が増えている傾向にあるため、教職員が多様化する学生に対応できる知見を深めていくために定期的な勉強会等を開催している。必要に応じて保護者と情報を共有し、連携した支援を行っている。学習支援としては、ASOドリルを入学前教育として活用している。

学生支援体制の整備だけではなく、制度設計もなされ有効に機能している。経済的支援としては、特待生制度、進級支援制度、学費分割納入制度及び無償化認定等、各種支援制度を準備し多くの学生が活用している。

また、卒業生に関しては再就職の相談や斡旋を行う専用のサイト「ASO 卒業生キャリア支援 CONNECT」を就職支援グループが中心となり運用している。

年間計画に基づき健康診断を実施し、結果を記録・保存している。教務と連携し、未受診者および再検査対象者への受診勧奨を行う体制を確立している。また、法令に基づき結核健康診断実施報告を保健所へ提出している。

さらに、結核感染予防の観点から、留学生に対しては入学前ガイダンス時(3月)に胸部X線検査を実施し、早期発見に努める取り組みを定着させている。

【課題及びその改善方策】

課題なし

【委員の方からのご意見】

- ・ 専門のカウンセラーの配置は教員も心強いと思う。フレックスクラスもしっかり支援できている。お金のことで夢をあきらめなくてよいサポートができていると思う。
- ・ 組織的対応が効果的に機能していると思う。フレックスクラスは学生、保護者にとってとても安心できるので、オープンキャンパス等でアピールしてよい。
- ・ 教育力マネジメント委員が機能していることに加え、フレックスクラスがあることで十分な学びの支援ができていると感じた。
- ・ 学生の皆さんが学業に専念できる環境を整えていると感じた。色々な学生のニーズにすべて答えることは難しいと思うが、様々な対策をされていることがよく分かった。
- ・ フレックスクラスの制度が素晴らしい。

- ・ 先生方が学生のケア・サポートを手厚くされていることに驚いた。社会人になると企業の管理や人事がそこまで寄り添えないのも現実で、入社後にギャップを感じる新入社員も多いのではないかと思った。
- ・ フレックスクラスから普通クラスに復帰できた事例もあり、すべての学生に学びの機会を与える制度は素晴らしく、対応にあたる先生方や保護者への説明が適切に行われていると思った。
- ・ 保護者が学校に連絡したことを子どもに知られるとよくない場合もある。直接学校と連絡できる方法があるとよいと思う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
5-1-1	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	2	2
5-1-2	学生相談に関する体制を整備しているか。	3	3
5-1-3	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	2	2
5-1-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	2	2
5-1-5	学生の生活環境への支援を行っているか。	2	2
5-1-6	保護者等との連携を適切に行っているか。	2	2
5-1-7	学生に対する修学支援体制を整備しているか。	2	2
5-1-8	入学前教育や学力不足を補う補習教育などの学習支援を行っているか。	2	2

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果：適正

6-1:教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

6-2:教育環境を適切に維持しているか。

【取り組み状況】

6-1

本校の施設・設備は、学校法人麻生塾総務・保守グループと学校がそれぞれ担当を分担し、管理している。法令に基づく定期点検を実施し、必要に応じて補修・修繕を行い、学生が安全に利用できる環境を整備している。また、各学科の専門教育に必要な設備・機材を適切に設置し、学生が知識や技術を修得できる環境を整えている。ソフトウェアライセンスは、数の管理が必要な物は資産管理ソフトウェアを導入して管理を継続している。また Microsoft 関係のライセンスは包括ライセンスを結ぶことによって、数量管理をせずに運用が可能となっている。通常教室においても ICT 教育を推進するため、備え付けのプロジェクターやホワイトボードなどのデジタルツールを活用できる環境を整備・管理・維持している。さらに、保健室や障がい等により支援が必要な学生のための設備(例:身障者用トイレ)の改善にも取り組んでいる。

麻生専門学校グループ福岡キャンパスでは、図書室・図書コーナーを設置し、職員配置や開館時間、閲覧環境および情報検索設備を整備している。また、図書管理台帳を作成し、規程に基づき図書の登録・点検・廃棄等の管理を行っている。これらを通じて、図書館サービスが適切に機能していることを確認している。

6-2

学校における安全管理については、校長代行を中心とした組織体制を整え、指示や伝達を Microsoft Teams (マイクロソフトチームス)や電子メールを活用して迅速に行っている。関連機器の点検を定期的実施し、報告書は保存管理を行っている。法定点検や設備点検時は可能な限り立会い、状況を確認している。さらに、安全上の問題が設備に発生した場合は、総務の問合せ窓口を起点に迅速に業者と連絡が取れるように体制を整え実践している。また、検温機器の設置や各フロアの手指消毒機材、全教室に換気を促す CO₂測定機器を継続して運用している。

防災訓練では、学生に対して館内の避難経路や避難場所の確認、地震時の危機回避行動訓練を実施した。4 月のオリエンテーション期間中には、実際に避難経路を通り避難場所へ向かう訓練を行い、学生への周知を徹底した。

インターンシップについては、事前に受け入れ企業と打ち合わせを重ね、実習時期や内容、受け入れ人数を確定し、覚書を交わした上で実施している。インターンシップ前には、学生に対して事前教育を行い、職業倫理、情報の取り扱い、安全管理などについて指導している。実習中は、学生が作成した実習報告書をもとに教員が適宜面談を行い、実習状況を確認している。終了後は、企業からの振り返りを基に学科内で教育的効果を検証し、次年度に向けた改善活動を行っている。

海外研修については、物価の上昇などの影響により希望する学生が減少し、一部の学科で中止となった。

【課題及びその改善方策】

6-1

環境整備はまだ十分とはいえない。ICT 教育推進に向けて学内設備や機材を定期的に見直していく。

【委員の方からのご意見】

- ・ 学生が夢に向かって勉強できるように設備が整っているのはよいと思う。防災訓練もあり、保護者にとっても安心できる。
- ・ 教育環境の定期的な整備、点検がなされていることはとても重要だと思う。
- ・ ICT 環境は年々整ってきているので運用が改善している。今後は教材の冊子がデータ化に進むと考えられ、高校の事例のように学生各自がタブレットの運用を検討する必要があるのではと思う。ただし充電等の設備の拡充、運用ルール、機器の費用回収方法など多岐にわたる新たな業務負担が考えられる。
- ・ 企業実習に来る学生はよく教育されている。マナーも身に付けており事前教育の徹底さを感じる。
- ・ 学生のインターンシップ前の壮行会は企業としてはとてもありがたい。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	2	2
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	2	2
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	2	2
6-2-1	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	2	2
6-2-2	定期的に防災訓練を実施しているか。	2	2
6-2-3	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	3	3

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果：適正

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【取り組み状況】

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)については、学校の教育理念や育成人材像を反映させた具体的な方針を策定し、その内容を募集要項および学生便覧に掲載している。また、学校ホームページにもアドミッション・ポリシーを掲載し、広く周知している。教育成果を含めた学校情報についても、実績を基に募集パンフレットやホームページ、SNS(LINE、インスタグラム)、オープンキャンパス説明資料などで明示し、公表している。

学生募集活動では、学校法人麻生塾のキャリア支援部と連携して適切に計画し、公平なプロセスで選考を行っている。

学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を実施している。入学願書の受付・入力から選抜試験運営までの業務体制を整備し、毎年度、事前に実施体制の検証を行っている。

入学選抜業務は「麻生塾システム」により一元管理し、総務・保守部門と連携しながら、募集要項に基づき適切に運用している。試験問題、実施教室、備品、運営担当者配置等についても計画的に準備を行っている。願書受付についてはマニュアルを整備し、統一的な運用を徹底している。試験当日の運営においても役割別マニュアルを整備し、事前打合せにより認識統一を図ることで、公正性・正確性を確保している。

校納金については、定期的な検証を踏まえて確定し、募集要項に金額を明記した上で入学希望者に適切に公表している。

【課題及びその改善方策】

課題なし

【委員の方からのご意見】

- ・ 教育理念、育成人材像を予め明示しており、ミスマッチなどはないように感じた。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表しているか。	2	2
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	2	2
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	2	2
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	2	2
7-1-5	校納金(学生納付金)等は妥当なものとなっているか。	2	2

基準 8 財務

学校関係者評価結果：適正

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【取り組み状況】

財務基盤は安定しており、貸借対照表や資金収支計算書にみる各種残高および基本金積み上げ額は、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えているといえる。

年度当初に、過去の実績値および市場動向の緻密な分析に基づき予算を策定しており、客観的な根拠を持った妥当な計画となっている。策定された計画に基づき、月次のサイクルで予実管理および執行状況の定期的なモニタリングを実施し、適正な運用を担保している。

私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。

ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を公開している。

【課題及びその改善方策】

課題なし

【委員の方からのご意見】

なし

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	2	2
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	2	2
8-1-3	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	2	2
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	2	2

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適正

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【取り組み状況】

法令や専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行うため、法人本部や他の関連部署と連携して運営している。また、学校単独で実施可能な事項と、部署間の連携が必要な事項を明確に分けて対応している。関係法令に基づく学内諸規定の改訂や変更が生じた場合には、迅速かつ適切に対応し、健全な学校運営を確保している。

【課題及びその改善方策】

課題なし

【委員の方からのご意見】

- ・ 法令遵守の意識は高いと感じる。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	2	2
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	2	2

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適正

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【取り組み状況】

本校は、学校教育および学校運営について毎年「自己点検・評価」を実施し、課題解決に取り組んでいる。

自己点検・評価においては、教職員の意見を集約しやすくするために Microsoft Forms(製品名)を活用したアンケートを実施しており、教育活動および学校運営に関する多くの意見を収集できている。

また、職業実践専門課程認定校であることに基づき、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会を開催し、教育活動や教育内容に関する検証を行い、改善に生かしている。

自己点検・評価及び学校関係者評価の結果はホームページで公開するとともに、学内では教職員間で共有し、次年度の活動に反映させている。

【課題及びその改善方策】

課題なし

【委員の方からのご意見】

- ・ 自己点検アンケートはよい取り組みだと思う。細かく点検することで向上につながる。
- ・ 自己点検評価の制度が確立されており、運用も適切に行われていると感じる。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
10-1-1	学校教育、学校運営について、組織的に自己点検・評価を実施しているか。	2	2
10-1-2	自己点検・評価の結果に基づき、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組みを組織的に、積極的かつ継続的に行っているか。	2	2
10-1-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施しているか。	2	2
10-1-4	学校関係者評価結果をもとに改善の取組みを行っているか。	2	2
10-1-5	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	2	2

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果：適正

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【取り組み状況】

本校では、社会貢献・地域貢献活動として、中学校や高等学校と連携し、中高校生を対象に学校教育の特徴を活かした業界講話や体験授業を実施し、職業理解を深める機会を提供している。

また、学生のボランティア活動への取り組みとしては、2025 年 9 月に「ミュージックシティ天神」、同年 11 月に「博多旧市街ライトアップウォーク」「九州レインボープライド」「福岡マラソン」の 4 つのイベントでのボランティア活動を促進し、地域に密着した貢献活動を行っている。

【課題及びその改善方策】

課題なし

【委員の方からのご意見】

- ・ 学生ボランティアがあると学生同士のコミュニケーションへつながり、友人が増える気がする。
- ・ 地元ホテルとの交流としてマーケットニーズに応じたコラボ商品やプランの提案などもよいかと思う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
11-1-1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	2	2
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	2	2

基準12 国際交流

学校関係者評価結果：適正

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【取り組み状況】

担当者による海外語学留学プログラムの学内説明会を行い、別途個別相談の場も設けている。申し込み者に対しては、オリエンテーションや英語勉強会を実施しており、学生・保護者等向けの説明会では、渡航先情報や必要な準備、現地での心構え、たびレジ等の情報共有を行っている。語学学校やエージェントとは直接連絡を取り、情報共有を行っている。学生とはチャット等の連絡ツールで常時連絡が取れるようにしており、質問や相談の受付、情報共有等を行っている。

留学生の受入れから在籍管理、在留資格手続きに至るまで、書類確認の厳格化、出席・成績の定期管理、入管届出の期限遵守を徹底し、適正な運営体制を構築している

ASO INTERNATIONAL HOUSE II (日本人学生と留学生が入寮することのできる国際寮)を設け、入寮・退寮の手続き案内、請求・返金などの寮費管理を行っている。2025 年度より、防火訓練を(株)共立メンテナンスに委託して実施するようにし、入寮後すぐに入寮説明と防火訓練を実施することで安全に生活できるよう理解を深めた。

【課題及びその改善方策】

課題なし

【委員の方からのご意見】

- ・ 専門学校で海外留学があることはストロングポイントになると思う。サポートの在り方もとても魅力的だと感じた。
- ・ 留学生の受入れ支援は、働き手不足の中、重要になってくると考える。
- ・ 留学生の受入れが多くなっているとのことで、在校生と留学生の交流がもっと盛んになるとよいと感じる。在校生が留学生のサポートができるとさらに良いのではないかな。
- ・ 学園祭等で留学生チームが国籍別のチームで自国のプレゼンテーションや料理をふるまう機会があるとよいのではないかなと思う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
12-1-1	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	2	2
12-1-2	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	2	2
12-1-3	留学生の学修・生活指導等に対する適切な体制を整備しているか。	2	2

以上